

Q 9 : 生涯学習の基礎となる力を培う、とは具体的にどのようなことか。

A : 生涯にわたって学び続ける力と学びの成果を公共のために活かす力の育成である。

中教審答申・報告では

それぞれが直面する困難な諸課題に立ち向かい、自ら乗り越えていく力を育てていくことが求められる。このためには、一人一人が生涯にわたり学び続けるとともに、それを社会全体で支えていく必要がある。

これからは、国や社会の問題を自分自身の問題として考え、そのために積極的に行動するという「公共心」を重視する必要がある。(H15年3月答申、抜粋)

社会を形成する自立した個人の育成が課題であると同時に、自らが社会づくりの主体となって社会の形成に参画する「公」の意識を持つことが重要になっている。こうした意識は個人の人格形成のすべての段階において、あらゆる機会の中ではくまれることが期待される。(H16年3月生涯学習分科会報告、抜粋)

知識基盤社会へと大きく変化する21世紀においては、単に学校で知識・技術を習得するだけでなく、知識・技能を活かして社会で生きて働く力、生涯にわたって学び続ける力を育成することが重要である。(H17年10月答申、抜粋)

具体的には

#### 生涯学習能力の育成

一人一人が学ぶことの楽しさを知り、基礎的・基本的な知識、技能や学ぶ意欲を身に付け、生涯にわたって自ら学び、自らの能力を高め、自己実現を目指そうとする意欲、態度や自発的精神を育成すること

#### 社会の形成者として必要な資質能力

個人の主体的な意思により、自分の能力や時間を他人や地域、社会のために役立てようとする自発的な活動への参加意識を高めつつ、自らが国づくり、社会づくりの主体であるという自覚と行動力、社会正義を行うために必要な勇気、「公共」の精神、社会規範を尊重する意識や態度

学校教育活動の中では

#### 生涯にわたって学び続ける力の育成

基礎的・基本的な知識や技能の修得  
現代的課題や地域課題についての学習機会の提供  
課題を発見し解決する力  
コミュニケーション能力  
自己表現力  
情報活用能力

#### 学びの成果を公共のために活かす力の育成

一人一人の学習の成果を諸教育活動の中で活かす。  
児童生徒の活動に意図的に公共性・社会性を与える。  
特活や総合の時間等で自治活動・市民活動やボランティア活動等の基本的能力を育成する

義務教育の使命

一人一人の子どもたちの個性や能力を伸ばし、生涯にわたってたくましく生きていく基礎を培うとともに、国家・社会の形成者として必要な資質能力を養うこと